



平成29年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年1月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブロッコリー
 コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成29年1月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 森田 知治
 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6892-2077

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第3四半期の業績(平成28年3月1日～平成28年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第3四半期	3,794	△7.8	395	△20.3	405	△16.7	261	△16.2
28年2月期第3四半期	4,116	△1.9	495	△50.2	486	△51.1	311	△49.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第3四半期	5.97	—
28年2月期第3四半期	9.52	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年2月期第3四半期	9,532	8,544	89.6
28年2月期	9,680	8,457	87.4

(参考)自己資本 29年2月期第3四半期 8,544百万円 28年2月期 8,457百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00
29年2月期	—	0.00	—	—	—
29年2月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成29年 2月期の業績予想(平成28年 3月 1日～平成29年 2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,700	△11.3	800	△20.8	800	△19.2	550	△11.7	12.58

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年2月期3Q	43,738,211 株	28年2月期	43,738,211 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

29年2月期3Q	1,323 株	28年2月期	1,323 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年2月期3Q	43,736,888 株	28年2月期3Q	32,736,888 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値とは異なる場合があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和等により、雇用・所得環境において改善の動きが見られるものの、中国を中心とした新興国の景気下振れ、英国のEU離脱問題等、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンやタブレット等の性能進化・通信インフラの発達に伴い、スマートフォンゲーム市場の拡大やコンテンツの多様化が進んでおります。また、「仮想現実 (VR: バーチャルリアリティ)」や「拡張現実 (AR: オーグメンテッド・リアリティ)」といった新技術を伴った新たなプラットフォーム・新市場の創出による世界的なゲーム市場の更なる発展にも期待が寄せられており、業界自体の多様化・拡大は続いております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、1. ゲーム、トレーディングカードゲームの2017年以降を担う、新主カタイトルの創出。2. 『うたの☆プリンスさまっ♪』のレジェンダ化。3. トレーディングカードゲーム『Z/X (ゼクス)』の逆襲、関連サプライ製品の再構築。4. 他社ライセンスのアンテナ強化。5. 専門店への企画提案力強化と、ハビネット社との事業シナジー構築。6. 自社ビル活用と経費圧縮での利益貢献。7. BCPの深化。8. 勤務体制の整備と職場環境づくり。の8点を今期の課題として推進しております。

次に、当第3四半期累計期間における部門毎の状況は以下のとおりであります。

当社女性向けコンテンツのグッズ部門では、主力コンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』におきまして、7月にオフィシャルショップ『SHINING STORE』を、東京原宿・大阪梅田の2大都市にて期間限定オープンし、昨年度を超えるご来場を頂きました。8月には、特別企画『Shining Dream Festa』をスタート。特別企画展『Shining Production presents Shining Dream Festa』を開催し、大変盛況なうちに会期を終えることができました。11月には、アニメイトガールズフェスティバル実行委員会が毎年開催する、アニメ・コミック・ゲームなどの女性向けコンテンツを集めた乙女のための祭典『アニメイトガールズフェスティバル2016 (AGF2016)』(11月5日・11月6日開催)に特別協賛・出展をいたしました。各イベントにおきましてスペシャルグッズの販売を行っており、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズは、通期で大変好調に推移しております。

CD部門では、特別企画『Shining Dream Festa』のテーマソング「DAY DREAM」・「NIGHT DREAM」をカップリングした『うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Dream CD』を8月に発売し、オリコン週間シングルランキング第3位にランクインするなど、好調な販売となりました。10月から11月にかけては、TVアニメの挿入歌となるアイドルソングシリーズ『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレジェンドスターDUET IDOL SONG』の音楽CD、計6作品を発売いたしました。CD部門としては前年の発売タイトル数に届かないこともあり、売上も前年を下回って推移いたしました。

なお、『うたの☆プリンスさまっ♪』は、TVアニメ第4期『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレジェンドスター』を10月より放映開始し、昨年末には「新アニメプロジェクト始動!」の発表と、KLab株式会社が平成29年に配信予定のスマートフォン向けリズムアクションゲーム『うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live』の告知も行っております。

ゲーム部門では、4月にプレイステーションポータブル及びプレイステーションヴィータ専用ゲームソフト『神々の悪戯 InFinite』を発売いたしました。また9月21日にはプレイステーションヴィータ専用ゲームソフト『マジきゅんっ! ルネッサンス』を発売いたしました。出荷本数は計画に届かず推移しております。

当社男性向けコンテンツでは、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)』のブースター3種、EXパック1種及び、スターターデッキ3種を計画どおり発売いたしました。苦戦の時期となりました。株式会社タカラトミーの人気トレーディングカードゲーム『WIXOSS -ウィクロス-』とのコラボレーション企画「X (クロス) カードキャンペーン」の開催や、8月にはZ/Xスタッフによる公式生放送『イグニッション放送局』(ニコニコ生放送)での「24時間拡大版スペシャル」を生放送し、9月には大型イベント『ゼクストリーム 2016. AUTUMN in 池袋』にて、全国のプレイヤーから“最強”を決める初の「Z/X 日本選手権」決勝大会を行う等、ユーザーが楽しめる参加型イベントも開催してまいりました。引き続き、来期以降の新企画等、反撃に向けた施策の推進に注力してまいります。一方、カードゲーム関連のサプライ製品につきましては、他社タイトルとの相乗効果もあり大変好調に推移しております。

他社ライセンスのグッズにおきましては、男性向けコンテンツ市場を牽引してきた『ラブライブ!』の新シリーズ『ラブライブ! サンシャイン!!』などの盛況なタイトルがあり、当社オリジナルグッズシリーズの「ちゅんコレ」や「chipicco」もユーザー認知が広がり好調ではありましたが、女性向け他社タイトルのライセンス獲得の一部に遅れもあり、部門として前年を超えるに至りませんでした。また他社ライセンスのフィギュア製品につきましては、発売タイトルを精査してきた結果、通期黒字化見込みにて推移しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は3,794百万円（前年同期比92.2%）、売上総利益率は33.6%（前年同期比1.5ポイントダウン）、売上総利益は1,273百万円（前年同期比88.3%）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、878百万円（前年同期比92.8%）となりました。

上記要因によりまして、営業利益は395百万円（前年同期比79.7%）、経常利益は405百万円（前年同期比83.3%）、四半期純利益は261百万円（前年同期比83.8%）と前年同期比では前第3四半期累計期間を下回って推移いたしました。

なお、当社は平成27年11月に株式会社ハピネットに対して新株式を発行し、新コンテンツ開発用資金の調達を行いました。この新コンテンツ開発計画に基づき、次の業績ピークの照準を平成29年から平成30年として、『うたの☆プリンスさまっ♪』に並ぶ、コンテンツ開発推進にも注力しております。

（2）財政状態に関する説明

（流動資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は4,416百万円で、前事業年度末に比べ112百万円減少しております。主な内容は、現金及び預金の増加138百万円、商品及び製品の増加181百万円などの増加要因に対し、売掛金の減少494百万円などの減少要因であります。

（固定資産）

当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は5,115百万円で、前事業年度末に比べ35百万円減少しております。主な内容は、有形固定資産の減少32百万円などの減少要因であります。

（流動負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は926百万円で、前事業年度末に比べ234百万円減少しております。主な内容は、前受金増加等によるその他の増加279百万円などの増加要因に対し、買掛金の減少319百万円、未払法人税等の減少173百万円、返品調整引当金の減少9百万円、役員賞与引当金の減少12百万円などの減少要因であります。

（固定負債）

当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は61百万円で、前事業年度末に比べ0百万円減少しております。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は8,544百万円で、前事業年度末に比べ86百万円増加しております。これは、四半期純利益261百万円が計上された一方で、剰余金の配当174百万円が行われたことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年2月期通期業績予想及び配当予定につきましては、業績予想の確度も増したことから、期初から第2四半期終了時までのレンジ形式での表示から単独数字での表示としております。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更等)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期会計期間から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期会計期間の四半期財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期累計期間において、四半期財務諸表に与える影響額はありません。

(減価償却方法の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(税金費用の計算方法の変更)

税金費用については、従来、年度決算と同様の方法により計算しておりましたが、第1四半期会計期間より、年度決算で見込まれる税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。この変更は、四半期決算業務の一層の効率化を図り、四半期決算における迅速性に対応するためであります。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第3四半期会計期間 (平成28年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,370,113	3,508,228
売掛金	809,060	314,297
商品及び製品	42,450	224,342
仕掛品	183,216	112,014
原材料及び貯蔵品	1,516	869
その他	122,321	256,923
流動資産合計	4,528,678	4,416,676
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,126,827	1,133,184
減価償却累計額	△81,960	△121,623
建物(純額)	1,044,867	1,011,560
土地	907,414	907,414
その他	102,657	115,333
減価償却累計額	△64,746	△76,566
その他(純額)	37,911	38,766
有形固定資産合計	1,990,193	1,957,742
無形固定資産	35,056	20,131
投資その他の資産		
長期預金	3,000,000	3,000,000
その他	128,230	139,815
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	3,126,230	3,137,815
固定資産合計	5,151,480	5,115,689
資産合計	9,680,159	9,532,366
負債の部		
流動負債		
買掛金	540,133	220,437
未払法人税等	173,983	-
返品調整引当金	73,097	63,668
賞与引当金	33,593	34,980
役員賞与引当金	25,000	13,000
その他	315,403	594,517
流動負債合計	1,161,210	926,603
固定負債		
その他	61,292	61,167
固定負債合計	61,292	61,167
負債合計	1,222,503	987,771

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第3四半期会計期間 (平成28年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金	2,066,627	2,066,627
利益剰余金	4,029,453	4,115,755
自己株式	△478	△478
株主資本合計	8,456,877	8,543,179
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	778	1,415
評価・換算差額等合計	778	1,415
純資産合計	8,457,655	8,544,594
負債純資産合計	9,680,159	9,532,366

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)
売上高	4,116,647	3,794,093
売上原価	2,673,761	2,520,302
売上総利益	1,442,885	1,273,790
販売費及び一般管理費	947,256	878,688
営業利益	495,629	395,102
営業外収益		
受取利息及び配当金	526	70
不動産賃貸料	18,547	50,704
その他	2,077	1,959
営業外収益合計	21,151	52,735
営業外費用		
支払利息	1,181	792
不動産賃貸費用	28,770	41,759
その他	63	42
営業外費用合計	30,016	42,595
経常利益	486,764	405,242
特別利益		
投資有価証券売却益	94	-
特別利益合計	94	-
特別損失		
固定資産除却損	-	25
特別損失合計	-	25
税引前四半期純利益	486,859	405,216
法人税等	175,134	143,967
四半期純利益	311,724	261,249

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。